

●令和6年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	16
主任介護支援専門員の人数	24
介護支援専門員の数	41

●令和6年度のケアプラン総数

基準月	ウェアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率(%)
令和6年3月	315	22	293	93.0%
令和7年3月				

R6.12月時点 吉田5件 西島1件 伊藤7件 若林6件 渡辺4件 佐藤2件 岩谷2件 早野1件

	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数							
ケアマネジメン ト継続的業務	事例検討会	1			1		2	20	1	12	1	12	3	・居宅介護支援事業所に事例検討会、及び勉強会を開催し、介護支援専門員の抱える課題の解決を目指す。研修会については、介護支援専門員のニーズに合った内容を全包括が協働し開催する。 ・居宅介護支援事業所、サービス事業所等機関と自立支援についての認識にまだ差異があると思われる。リハビリ専門職と協働することにより、高齢者の状態に即したケアマネジメントが実施できるよう支援する。	・事例検討会では地域課題と言える（認知症、独居等）昨年度検討した事例を意思決定支援の考え方、プロセスを学び（大阪弁護士会から派遣）、意思決定支援の視点で再検討した。 ・はつらつ教室については、リハ職同行訪問の結果、緩和型サービスの利用につながるケースが多く見られる。本人の意向もあるが、その家族に事業に対して理解を得ることが難しい。広く住民に周知されていない（効果等を含めて）ことも課題である。	・意思決定支援については、本市でも課題が多く、引き続き高齢者の権利擁護の視点からも検討をお願いしたい。 ・はつらつ教室については、受け皿の問題もあるが、市民への周知啓発も課題となっているため、市と協働して市民やケアマネジャーへの周知啓発などを行っていただきたい。	・ 認知症高齢者の増加は圏域課題の一つである。認知症に起因する住民間トラブルの増加もあり、事例検討会では意思決定支援のプロセスを学んだうえで昨年度取り上げた事例を再検討した。 ・はつらつ教室件数は目標に及ばなかったが、受託事業所の体制等もありスピーディに利用できなかったことを勘案し評価した。次年度も地域住民とその家族には元気になるためのツールとして事業の周知を進める。	・元気はつらつ教室に対するCMの周知に関しては、数十人の利用者を送り込んでおられるので、対象となるケース、必要な支援内容や教室参加前後の変化等を含めて圏域内での研修会の開催等を次年度は検討いただきたい。 ・ 高齢者数の多い圏域であるため、複合的な課題をもつ高齢者も多い中、地域課題に即した事例検討や研修を行っていることは評価できる。
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0							
	研修会（法定外研修含む）	2			5	5	100	1	86	2	116	3						
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	30							
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2			1	2	20	3	25	4	39	3						
	元気はつらつ教室利用者数（直持ち）		20			12	14	0			8	3						
	元気はつらつ教室利用者数（委託）					1	2	0		0	2							
元気はつらつ教室終了後ケアマネジメントB算定件数（3か月後／6か月後）		12		20	30	5		5	2									
ケア地域議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		延べ3		延べ4		延べ1（実1）		延べ3（実3）		3	個別地域ケア会議については多職種、時には住民の参加により、地域で解決する問題として取り組む。また住民が地域の実情を知り、地域について考える機会となるよう地域にアウトリーチし圏域ケア会議を開催する。	圏域ケア会議は秋頃に予定。過去のデータに基づく地域の課題と、包括の日常の相談内容から浮かぶ地域課題を伝えることで、地域のために活動されている民生委員とのつながりを強化することも目的としている。	・各校区など住民に近いところで会議を開催されたり、地域活動の要である民生委員との連携など今後の活動において、保険者としても重要と考えているため、今後も引き続き注力お願いしたい。	個別地域ケア会議は虐待、消費者被害等権利擁護に関するものであった。圏域ケア会議は東小校区にて、共に地域づくりを協働する機関として圏域内ケアマネジャー、民生委員の参加により開催した。	圏域ケア会議では、地域の特性等を知ってもらい、参加者自らが何らかの取組を始めるきっかけづくりとしている。	
	圏域地域ケア会議	1		1		1	20	0	0	2	13	3						
把握介護予防事業防	基本チェックリスト実施件数		30		53		60		18		39	2	他機関、地域等からの情報提供や相談業務、介護予防教室で基本チェックリストを実施し、その心身と生活の状況から、必要時は早期介入を行い、フレイル予防の啓発を行う。	介護予防教室等でチェックリストを実施、記入者には強みを評価した上で取り組む事があれば助言している。後期もはつらつ教室をはじめ介入がかなる方には一つのツールとして活用する。	今年度目標に対して、上半期の数が少ないようですので、下半期にも教室などの機会を用いてチェックリストを実施し、フレイルの方の把握などに活用していただきたい。	介護予防教室や各通いの場に出向きチェックリストを実施、記入者にはセルフケアの意識付けとなるよう、また必要あればはつらつ教室をはじめ支援介入のツールとして活用した。	チェックリストにより事業対象者の該当した方に対して、総合事業につなげる必要があるのかをスクリーニングし、来年度はその部分を強化いただきたい。	
	上記のうち総合事業につなげた件数						0		0									
普及啓発介護予防事業	介護予防教室	12	120	12	184	13	200	8	136	11	191	3	介護予防教室については、住民が歩いて行ける場所にこだわり、身近な自治会館、集会所、地域の金融機関等で各地域に偏ることなく開催する。コロナ過からの課題であるフレイルの原因とその対処法等、効果的で、かつ住民のニーズに合った内容とする。	・介護予防教室は各地域、住民が歩いて行ける場所で開催している。内容とともに、住民のニーズに応え、参加してみたいと思える、活動につながる内容の工夫も必要であり、担当の生活支援コーディネーターが各通いの場を定期訪問し、参加者の率直な意見を聞き取り、報告いただいたことを活かしたものとしたい。	・これまでも住民に近い場所での教室開催を掲げて実現しており、上半期も着実に開催してられる。 ・生活支援コーディネーターも積極的に活動され、包括支援センターとの連携も密に行われており、今後の活動にとても期待をしている。 ・MCIの発掘のため、他圏域と連携した教室開催など、新たな取組みや、市民の興味をひくような内容の教室など、今後も取り組んでいただきたい。	今年度はフレイル予防、健康づくりに重きを置き、各自治会館や公共施設をお借りし開催している。次年度については地域の声をもとにニーズに合ったものを、また認知症高齢者の増加という課題を踏まえて。認知症の普及、啓発に力を入れた内容を検討している。	2月に介護予防教室を開催予定であり、予定通りに計画値を通りに実施できています。認知症に関するテーマで次年度を予定されており、認知症地域支援推進員を中心に教室内容を検討いただきたい。 フレイル予防については市の一体的事業とも連携し、今後も周知していただきたい。また、地域課題でもある認知症に関する取組を、圏域の医療機関との連携なども検討しながら、効果的に行っていただきたい。	
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0	0	0							
	出前講座			3	48			1	18	2	36	3						
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0							
	介護予防教室・出前講座以外の普及啓発活動	1	10			2	16	0	0	2	57	3						
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	39							

